

## 静岡県果樹農業振興計画の骨子

## ＜現状と課題＞

## ○ 担い手

果樹栽培農家数 7,701戸(H27) → 6,489戸(R2) ▼

果樹新規就農者数 32人/年(H30) → 57人/年(R6)

- ・高齢化が加速する一方、果樹の新規就農は未収益期間の収入確保や高度な技術習得などハードルが高い
- ・労働力不足、傾斜等の条件で機械化可能な園地に限られる

## ○ 供給

県内果樹収穫量は、減少傾向 ▼

- ・生産量が需要に応えられない状況から、国の基本方針は引き続き生産基盤強化を加速

品目	H25	R1	R6
みかん	121,800t	85,900t	88,500t

- ・成木園等優良な園地の確保が困難
- ・気象変動や自然災害等による果実品質や生産量への影響

## ○ 流通・販売

みかんkg単価 275円(R2) → 338円(R5)

落葉果樹kg単価 600円(R2) → 875円(R5)

みかん年明け市場シェア (R5) 47%

AI・ICT等活用集出荷施設数 0 → 3(R5)

- ・集出荷施設の老朽化と利用率の低下
- ・落葉果樹は個販生産者が多く地元消費の傾向

## ○ 需要

生鮮果実購入金額は、ほぼ維持

生鮮果実購入数量は、減少傾向

全国	H27	R5
購入金額 円/人	11,967	12,999
購入数量 kg/人	25.8	22.3

- ・販売価格の高騰による消費者の果実離れが懸念
- ・果樹は産地ごと様々な取組を実施

## ○ 研究開発

- ・気候変動に対応できる新品種、新たな栽培技術等を県が開発
- ・労働力不足や気候変動に対する技術開発の要望が高まっている

## ＜施策の方向性＞

## I 安定的な農業所得を確保できる経営体の育成

## 1 担い手の育成・確保

(1) 安定的な農業所得を確保できる経営体の育成

- ア 産地が一体となった後継者、新規就農者の育成
- イ 規模拡大志向農家、複合経営等に対する経営指導

(2) 多様な労働力の確保

- ア 外国人材、農福連携等多様な労働力の確保に向けた環境整備

## II 課題解決に向けた果樹農業振興施策

## 1 需要に応じた果実の供給力強化

(1) 効率的で安定的な生産体制の構築

- ア 省力栽培技術の普及推進
- (2) 優良園地の確保と集積
  - ア 老齢樹の更新、優良品種への改植基盤整備の推進
  - イ 地域計画に基づいた担い手への農地集積
  - ウ 基盤整備の推進

(3) 気候変動等が生産に及ぼすリスクへの対応

- ア 気候変動等に対応した品種・技術の導入
- イ 環境負荷低減技術の導入

## 2 果実の流通の合理化と販売体制の構築

(1) 販売戦略に基づく流通・販売体制の再編・整備

- ア AI・ICTを活用した集出荷施設を核とする流通体制の強化
- イ 供給や取引先との連携による販売体制の強化
- (2) 生産者の所得向上に繋がる有利販売の推進
  - ア 加工、輸出など付加価値を向上させる取組支援により、農業の稼ぐ力を強化

(3) 多様な消費者ニーズを捉えた新たな需要への対応と発信

- ア ブランドの戦略的な保護・活用及び情報発信
- イ 多彩な連携効果の活用
- ウ 消費者の理解醸成

## III 果樹農業振興施策を支える技術開発

- 1 生産性向上のための省力安定生産技術の開発
- 2 気候変動等に対応した育種、安定生産技術の開発
- 3 持続可能な生産技術の開発と生産リスクへの対応

## ＜目標(R12)＞

- ・果樹新規就農者数 50人
- ・果樹認定農業者数 620戸

KPI  
果樹型トレーニングファーム  
取組産地数 3産地

- ・果実生産量 11.1万t  
うち、うんしゅうみかん 10.3万t
- ・果実産出額 374億円  
うち、うんしゅうみかん 340億円
- ・果樹栽培面積 6,300ha  
うち、うんしゅうみかん 4,800ha

KPI  
優良品種等への改植面積 40ha/年  
うち気候変動対応品種 12ha/年

- ・首都圏への県産みかんの流通金額 62.5億円

KPI  
AI・ICT活用集出荷施設数 (累計) 5施設  
年明け県産みかん市場流通量 5.0万t